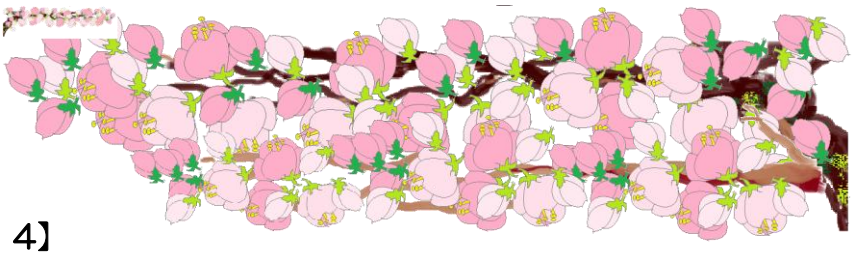

【月曜朝会の話より３月②H280３１４】

「仕上げの２秒」

３月になりました。全員で集まるのは今日が最後です。今年一年のまとめをしましょう。それでは朝の挨拶をします。お早うございます。（おはようございまぁす。）

６年生の合図に、たくさんの人が応えてとても気持ちのいいあいさつができました。さて、いよいよ３月も後半。あっという間の３月。１年生から４年生まではあと８日。５年生と６年生はあと９日。６年生のお話にもあったように、今日は今年度最後の月曜朝会です。次に皆さんが集まるときには、１年生は２年生に、２年生は３年生に、３年生は４年生に、４年生は５年生に、５年生は６年生最上級生、そして６年生はもう桃五小にはいません。それぞれの中学校の一年生です。

１年生から６年生までどの学年の人たちも、今の学年の最後の月。残り数日ですね。

そしてとくに、６年生は小学校最後の数日になるわけです。

これまでの１年間の努力を、６年生は小学校生活での６年間の努力を、それぞれ次の１年間、次の日々に生かしていく上で大切な時期になりますね。

そこで、今日は、仕上げの２秒という話をします。

ずっと以前、焼き物づくり夢中になっていた頃、益子に釉薬（うわぐすり）をさがしにいったときに、こんな話を聞きました。

陶芸家で人間国宝の浜田庄司さんという人が、記録写真の撮影に来られた写真家の方とこんな話をしたそうです。

６０センチもある大きなお皿を造ります。

まず、掘り出した粘土を、汗をかきかき何度も何度もよくこねて滑らかなよい粘土を作ります。そして、轆轤というぐるぐる回る台の上で両方の手を泥だらけにしながらお皿の形にひねり出します。大きな大きなお皿です。まだ乾いていない泥のお皿はとても重いのです。このお皿を良い形にするために丁寧にかんながけをし、無駄な粘土を削って良い形に整形します。

つぎに、今度は作ったお皿をひび割れさせないように、割れないように、ゆっくりゆっくりと時間をかけて乾燥させる作業。その次にいよいよ１度目の窯焼き。大きなお皿や壷や茶碗を焼くためのお窯に割れないように上手に詰めて、割れてしまわないようにゆっくり手間ひまをかけてたくさんの薪を使って丁寧に素焼きします。

そして、あとはもうきれいに色や模様をつけてもう一度お窯に入れて焼くだけ。出来上がる寸前の段階です。いよいよ最後の仕上げに、絵付けといって色や模様をつけるために釉薬という焼き物用の絵の具を塗るのです。とても立派な大きなお皿。いよいよこれから釉薬で絵付けをして仕上げます。これまでの粘土捏ねや、轆轤での形作り、カンナをかけての形の仕上げ、割れないように時間をかけての乾燥作業と丁寧な素焼き作業、そして最後の最後の仕上げの『絵付け』という、色付けの作業です。

ですからさぞかし丁寧に、慎重に・・・・と、思いきや、柄杓に釉薬（焼き物用の絵の具）を入れ、一呼吸、ふた呼吸入れると、それこそ１、２秒で柄杓がけ（釉がけ）という方法で『絵付け』してしまいます。あっという間もありません。

思わず、写真家の方が「もうちょっと手間をかけて丁寧にしても・・・。これまでこんなに手間をかけて造ってきたのに・・・。」と思ってそういうと、こんな答えが返ってきた

そうです。
『確かにあっという間かもしれないが、この数秒の中に私のこれまで６０年間身につけてきた経験が入っている。６０年間休まず練習して、たくさんの経験をして、長い長い時間と、たくさんの努力をして、自分の力で身につけたたくさんの知識や技術、その６０年分の手間ひまたす２秒、３秒、なんだよ・・・・・・・・・・・・。』（ただ２，３秒で偶然できているのではないのですね。長年の努力の成果がこの２，３秒のなかにぎゅうっとつまっているのですね・・。）

さあ、桃五のみなさんもこれまでの自分を振り返り、１年生は生まれてこれまでの７年分、２年生は８年分、３年生は９年分、４年生は 10 年分、５年生は 11 年分。そして、６年生は１２年分とそのうちの小学校６年分でいろいろな体験や努力して身につけたこと、それをどんなふうに生かすか、そして来年をどんな１年にするか、どんな自分を見つけるのか。そんな意味で残りの日々を大切にしてほしいのです。これまでの自分の身に付けた力で、自分らしく今年を仕上げてください。さて、皆さんのこれからの仕上げの数日は、どんなことを・・・仕上げるのでしょうか・・・。
仕上げの日８。５，６年生は仕上げの９日。
あと少しですよ、大切に、大切に。